

日本動物実験代替法学会

活動紹介及びご入会のお誘い

動物実験代替の目的は、動物数の削減(Reduction)、苦痛の軽減(Refinement)および非動物試験への置換(Replacement)、すなわち 3Rs 原則に集約されます。この 3Rs 原則は 1959 年にラッセルとバーチが提唱し、1998 年 8 月の第 3 回動物実験代替法世界会議にてボローニャ宣言として採択されました。今では、動物実験実施および代替法の開発における基本的な原則であるとして、多くの学協会が支持し、我が国の動物愛護法を含む各国の法律・指針や国際標準・国際指針にも採用されている普遍的な概念へと発展しています。

日本動物実験代替法学会は、1987 年に菅原 努先生(京都大学名誉教授、学会名誉会員)が発起人となった「日本動物実験代替法研究会」に端を発し、1990 年に「日本動物実験代替法学会」として正式に発足致しました。それ以後、わが国における 3Rs の研究や普及のための中心となってきており、現在では日本学術会議の登録団体ともなっています。

本学会は、多くの実験動物を使用している安全性試験の分野を始めとして、社会のあらゆる分野において、3Rs 原則に則った動物実験の実施や代替法の導入が行われるべきであると考えています。まず、動物実験の実施に当たっては、使用数の削減(Reduction)と動物の苦痛の軽減(Refinement)に最大限の配慮を払うべきです。一方、非動物試験による動物実験の置換(Replacement)の実現のためには、代替すべき生体反応に関する基礎研究からその科学的妥当性評価にいたるまで様々な分野の専門的知見を融合して開発を進め、その科学的妥当性を慎重に確かめる必要があります。

このように幅広い研究分野を対象とする本学会は、毎年の学術大会では、他学会の協力も仰ぎながら、最新の基礎科学の利用から社会的課題まで幅広いシンポジウムを企画してきています。これ以外にも、最新の世界動向や代替法技術について、講演会や講習会を開催してきています。また、会員の学術研究の支援のために、独自に毎年継続して研究助成を行っています。これらに加えて、学術英文誌 AATEX の発行、ニュースレター・メールニュース等を通じて、我が国研究者の成果を広く世界に発信するとともに、最新の情報を会員に届けるべく努力をしています。近年、代替法開発・実施においては、世界的な協調が重視されるようになっていますが、本会はアジア圏・欧米の代替法研究団体とも密接な関連を構築してきており、その成果もあって 2007 年 8 月には、日本学術会議や国際動物実験代替会議とともに第 6 回国際動物実験代替法会議をアジア圏で初めて東京で開催することに成功しています。

本会は、今後も、日本動物実験代替法学会は、わが国における代替法研究の更なる発展と 3Rs 原則の普及を通して、我が国ばかりでなく海外にも広く貢献して行きたいと考えています。このためには様々な研究分野を専門とされる研究者の方々の参加が必要です。これを機会に是非、日本動物実験代替法学会へのご参加を検討下さい。また、学生会員の方は年会費がお安くなっておりますので、こちらもお入会をお待ち致しております。

●詳細な最新情報については HP、<http://www.asas.or.jp/jsaae/>、もご覧下さい。

近年の主な活動紹介

●国内大会

毎年 11～12 月に国内大会を開催しています。口頭発表はシンポジウムやワークショップのみとし、一般講演はポスター(フラッシュ口演を含む)としてより親密な議論の形成に努めています。ポスターセッションは毎回熱気に包まれています。また、関連他学会との合同大会開催もしばしば実施すると共に、一般の方々を対象とした市民公開シンポジウムをプログラムに積極的に盛り込んでいます。

- ・第 30 回大会: 2017 年 11 月 23～25 日、大田区産業プラザ(東京)
テーマ: 「レギュラトリーサイエンスと 3Rs」
- ・第 29 回大会: 2016 年 11 月 16～18 日、九州大学(福岡), Asian Congress 2016 と共同開催
テーマ: 「分子-細胞-個体の視点からの代替法」
- ・第 28 回大会: 2015 年 12 月 10～12 日、ワークピア横浜(横浜)
テーマ: 「考・動物実験代替試験法の今とこれから」
- ・第 27 回大会: 2014 年 12 月 5～7 日、横浜国立大学(横浜)
テーマ: 「過去からの脱却と未来に向けたキックオフ」
- ・第 26 回大会: 2013 年 12 月 19～21 日、京都テルサ(京都)
テーマ: 「動物実験代替の基礎科学と新展開」
- ・第 25 回大会: 2012 年 12 月 7～8 日、慶応大学薬学部(東京)
テーマ: 「動物実験代替法のサイエンス ～機構に基づいた予測～」
- ・第 24 回大会: 2011 年 11 月 11～13 日、宮城県建設産業会館
テーマ: 「動物実験代替法の新たな展開」
- ・第 23 回大会: 2010 年 12 月 4～5 日、北里大学薬学部(東京)
テーマ: 「動物実験代替法の基礎と実践」
- ・第 22 回大会: 2009 年 11 月 13～15 日、大阪大学吹田キャンパス銀杏会館
- ・第 21 回大会: 2008 年 11 月 13～14 日、埼玉会館
- ・第 20 回大会: 2006 年 12 月 8～9 日、東京大学駒場Ⅱキャンパス
- ・第 19 回大会: 2005 年 12 月 1～2 日、フォーラム 246(伊勢原市)
- ・第 18 回大会: 2004 年 11 月 29 日～12 月 2 日、長崎ブリックホール、日本環境変異原学会と合同
- ・第 17 回大会: 2003 年 11 月 7～8 日、麻布大学(相模原)
- ・第 16 回大会: 2002 年 12 月 4～5 日、総評会館(東京)

●Asian Congress 2016

・第 29 回大会と共同開催, 2016 年 11 月 15～18 日、唐津市民ホール(佐賀)及び九州大学(福岡)
アジアにおける 3Rs 研究, 適応促進に関するアジア独自の大会として開催された。

●講演会・技術講習会など

- ・試験法に関する技術セミナー、STE 試験(OECD ガイドライン No. 491)2017 年 11 月 10, 11 日(神奈川)
- ・第 8 回動物実験代替法チャレンジコンテスト、第 27 回大会時に特別セッションを開催
- ・ワークショップ「日本発の動物実験代替法の現状」、2014 年 8 月 1 日(東京)
- ・第 7 回動物実験代替法チャレンジコンテスト、第 26 回大会時に特別セッションを開催
- ・JaCVAM・JSAAE 合同ワークショップ「皮膚感作性における Adverse Outcome Pathways (AOP、有害転帰経路)」2012 年 9 月 13 日、京都
- ・第 6 回動物実験代替法チャレンジコンテスト、第 25 回大会時に特別セッションを開催
- ・第 5 回動物実験代替法チャレンジコンテスト、第 24 回大会時に特別セッションを開催
- ・JSAAE・JaCVAM 合同ワークショップ「動物実験の 3R における国際動向」、2011 年 2 月 14 日(東京)
- ・第 4 回動物実験代替法チャレンジコンテスト、第 23 回大会時に特別セッションを開催
- ・技術講習会「初めてでも分かる動物実験代替法入門」、2010 年 9 月 20 日(北海道)
- ・「h-CLAT シンポジウム—日本で生まれた感作性試験代替法の概要とその応用—」2010 年 1 月 20 日(東京)
- ・「第 3 回動物実験代替法チャレンジコンテスト」、第 22 回大会に特別セッションを開催
- ・「代替法入門 未来を切り開く動物実験代替法」、2009 年 8 月 21 日(神戸)
- ・「第 2 回動物実験代替法チャレンジコンテスト: 教育現場における動物実験と 3R の啓発」、2008 年 10 月 11 日(東京)
- ・「WC6 フォローアップシンポジウム-3Rs に基づく動物実験の規制と第三者認証-」、2008 年 2 月 23 日

(東京)

- ・技術講習会「3次元培養皮膚モデルの活用」、2007年11月20日(東京)
- ・「教育現場における3Rsに対する新たな取り組み:第1回動物実験代替法チャレンジコンテスト」、第20回大会時に特別セッションを開催

●学会誌 AATEX (Alternatives for Animal Testing and Experimentation)および論文賞

本学会の英文学術誌であるAATEXは、1990年に第1巻が発行され、2017年度に第22巻を数えるまでになっています。この間、わが国の研究者の研究成果およびわが国で独自に進められてきた新規代替法のバリデーション研究体系的成果などの海外発信に役だってきました。また、先に行われた代替法WC6のプロシーディングも特別号として出版いたしました。さらに毎年、前年に掲載された論文から特に優れたものに対して、優秀論文賞を授与しています。現在、J-Stageで電子ジャーナルの利用が可能となっています。

(<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/aatex>)

●研究助成金

「試験法評価に関する研究助成」として、化粧品等の開発に必要な動物実験代替法の試験法評価(バリデーション)に関する優れた研究に対して助成(総額200万円)を行っています。

また、マンダム動物実験代替法国際研究助成金を公募しております(1件あたり50万円~200万円、総額250万円/年間)。国立私立大学、国立または非営利事業財団等の研究機関において、動物実験代替法に関する研究(研究分野は問わない)に従事する研究者(日本動物実験代替法学会会員であること)で、アジアを中心とした全世界の研究者が対象となっております。

●顕彰事業

日本動物実験代替法学会では、動物実験の3Rsに関する優れた功績を残した本学会会員をReduction、Refinement、Replacementそれぞれの分野で「学会賞」として表彰しています。また、日化協LRIでの若手中堅研究者奨励の一環として、本学会に「日化協LRI賞」が設けられております。この賞では、化学物質がヒトの健康や環境に与える影響に関した動物実験代替法の分野で、学会誌AATEXを含めた国内外の学術誌に発表した研究を対象とし、完成度、実用化後のインパクト等を考慮して選考し、大会での表彰、副賞(30万円)贈呈をしています。45歳以下の3年以上継続して本学会の会員が対象となっております。

●国際動物実験代替法会議への渡航助成

国際会議での発表奨励のために、会員への渡航助成(15万円/人程度)を継続的に実施しています。

●参考:国際動物実験代替法会議の開催状況

- ・第10回:シアトル(米国、2017年)
- ・第9回:プラハ(チェコ、2014年)
- ・第8回:モントリオール(カナダ、2011年)
- ・第7回:ローマ(イタリア、2009年)
- ・第6回:東京(日本、2007年)
- ・第5回:ベルリン(ドイツ、2005年)
- ・第4回:ニューオーリンズ(米国、2002年)
- ・第3回:ボローニャ(イタリア、1999年)
- ・第2回:ユトレヒト(オランダ、1996年)
- ・第1回:ボルチモア(米国、1993年)

入会のメリット

- 1) 定期刊行の日本動物実験代替法学会英文機関誌「AATEX」が配布されます。
- 2) 動物実験代替法に関連した最新のメールニュースが配信されます(年間50通程度)。
- 3) 大会・講演会・技術講習会等、会員として参加できます。
- 4) 日本動物実験代替法学会の研究助成・国際会議の渡航助成に応募するには、会員であることが必要です。
- 5) 学会賞・論文賞等の候補となるためには、会員であることが必要です。
- 6) 総会に出席し、会務を協議、議決する等、会則に定められた権利を行使できます。

2017-2018 年度理事及び委員長

- ・会 長：酒井 康行（東京大学）
- ・副会長：宮崎 博之（(株)日本生物製剤）
- ・総務担当理事：有海 秀人（北里大学）
- ・財務担当理事：今井 教安（(株)コーセー）
- ・編集・広報担当理事：井上 智彰（中外製薬(株)）
- ・企画担当理事：宮澤 正明（花王(株)）
- ・国際交流・学術担当理事：寒水 孝司（東京理科大学）
- ・財務委員長：今井 教安（(株)コーセー）
- ・企画委員長：宮澤 正明（花王(株)）
- ・3Rs啓発委員長：内野 正（国立医薬品食品衛生研究所）
- ・総務委員長：有海 秀人（北里大学）
- ・編集委員長：松下 琢（崇城大学）
- ・広報委員長：井上 智彰（中外製薬(株)）
- ・国際交流委員長：小島 肇（国立医薬品食品衛生研究所）
- ・学術委員長：寒水 孝司（東京理科大学）
- ・監事：秋田 正治（鎌倉女子大学） ・監事：大森 崇（神戸大学）

事務局連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 一般社団法人 学会支援機構内
Phone: 03-5981-6011 , Fax: 03-5981-6012 , E-mail: jsaae@asas-mail.jp

2017-2018 年度会長ご挨拶

このたび、2017-2018 年度の本学会会長に就任いたしました東京大学大学院工学系研究科の酒井康行です。この2年間、前期の小島会長が整えられてきた規約や内規を基に、基本的にはその路線を継承して、持続的な発展が可能なような学会の活動と運営を確立したいと考えております。会員の皆様にはよろしくお祈りを申し上げます。



この2年間、「広がる対象に適した学融合」、「国内での3Rsの普及」、「新たな国際情勢に対応したプレゼンスの確保」、「持続可能な学会運営」を目標にし、具体的には以下のような施策を進めたいと考えております。

まずは、執行部主導の大会企画などを通じた異分野学会との連携強化、代替法の利用がやや遅れている分野からの会員や評議員の選出、大学等の会員を通じた学生会員のリクルートなどを通じて、学術融合や会員増強を図りたいと考えております。代替法は局所から全身・長期の影響評価への取り組みが求められており、科学的・技術的にはハードルが非常に高くなっていると同時に、単に細

胞ベースの手法だけでなく、様々な数理的手法との融合が必須となります。「動物を使用しない個体影響評価手法」の長期的な最終形をも考えつつ、異分野の最新の学術を目的意識的に融合し、社会に役立てていくという姿勢は本学会の大きな特徴です。関連する産業界のご協力も適宜お願いをしつつ、ますます発展をさせたいところです。また、特に我が国発ですでに国際的ガイドラインに記載されている代替法については、懸案となっている技術セミナーを、なんとか開始すると共に、本会の行事として根付かせたいと思っています。

以上のように学術的要請が高まっている代替法ですが、一方で社会への導入は我が国ではまだまだ不十分です。以上のような **Replacement** を可能とする優れた代替法の開発もさることながら、現在行われている動物実験について、**Refinement** と **Reduction** をより一層進めることは、本学会の重要な任務です。この点については、関連学会や動物福祉団体等との交流をより進め、社会への働きかけ等を通じて、学術コミュニティ以外での代替法研究の重要性のアピールを進めたいと考えております。また、学生等の若手の啓蒙も懸案事項の一つであり、方向性を出したいと思っています。

国際的には、引き続き **JaCVAM** の国際標準化活動を学術的かつ多面的にサポートすると同時に、欧州・米国・韓国に加えて中国との連携を模索したいと思います。また、**AATEX** の **PubMed Central** への掲載もその先の展開への大きな一歩になると考えています。これらを通じて、アジアンコングレスの各国での継続的開催のサポートや将来の **WC** 誘致ばかりでなく、真に日本の研究者のためになりかつ国際的寄与やプレゼンス向上に役立つ中期的な方向性を出したいと考えております。

我が国の大多数の学会が直面している持続的発展は、社会的にも学術的にも発展が期待される本学会においても他人事ではありません。特に国内の多様な活動のあらゆる場面で、異分野・若手の意識的な会員・評議員等へのリクルートを進めたいと考えています。一方で、委員会・意思決定システムを何とか効率化し、熱意を持った若手中堅の研究者の貴重な時間を損なうことなく、主体的に学会活動に参画できるような運営体制の構築も可能な限り進めたいと考えます。

これらの施策を通じた目標の達成のためには、理事のみの力では全く不十分であり、企業や各種団体の方々や、評議員・会員の方々のお力添えが不可欠です。昨今、皆様以前にも増してお忙しくされて居られることかとは存じますが、できるだけご協力をお願いしたいと存じます。

2年間どうぞ宜しくお願い申し上げます。

酒井 康行